事業者における放課後デイサービス　自己評価表（公表）

事業所名　SMILE HEART KURA

		チェック項目	はい	どちらとも言えない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 工夫している点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	3		座席を壁側に寄せる、全体に話をするときは椅子のみを用意してもらう等をし、スペースを広く設けるように工夫している。
	2	職員の配置数は適切である	2	2	1	適切な配置数だと考えられるが、もう一人いるとより充実する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	1	2	低い洗面所やトイレ内の手すり等、配慮がされている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	2	3		利用者の机に目標を貼ることで職員の認知を促し、PDCAサイクルに参画している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	2		アンケートを実施しており、意見を参考にして業務改善に努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	3		ホームページで公開しているため、今後も続けていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3		現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じて実施を検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	2		防災委員会、感染対策委員会等の研修を、定期的に実施している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	1		保護者様の意見をしっかり汲み取り、放課後等デイサービス計画を作成していく。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1		標準化されたアセスメントツールを使用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1		チームで相談しながら作成している。
	12	活動プログラムが固定化されないように工夫している	4	1		5領域を意識し、固定化しないように工夫している。同じ名前の活動でも、内容を変えながら行っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1		休日・長期休暇には、平日では時間の問題で難しい課題を実施するよう配慮している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	5			一人一人の特性・能力に合わせた放課後等デイサービス計画を作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援内容や役割分担について確認している	5			職員間でこまめに声を掛け合い、当日の支援について話し合いができている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1		当日の振り返りが難しい場合もあるが、遅くとも翌日には情報共有をしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			スプレッドシートに正しく細かく記録し、共有することで改善につなげている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5			半年に1度、モニタリングを実施し放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	3	2		基本活動を複数組み合わせ、利用者に必要な活動を考え支援をしている。
関係機関や	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	3	2		主に児童発達支援管理責任者が参加しているが、その子どもについて精通している職員がいる場合、同席していただいている。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5			次週や月間の予定表等、保護者様にご連絡し、情報共有している。また、学校のHPから情報を把握している。
	22	医療的ケアを必要とする子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	2		現在該当する児童はいないが、服薬をする場合は保護者様を通じて連絡体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	2		小学校前に利用していた保育所や幼稚園と、担当者会議を行い、情報共有と相互理解に努めている。

保護者との連携	24	学校を卒業し、放課後デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		2	3	現在、学校を卒業する児童は在籍していない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2		必要に応じて、専門機関との連携を検討する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		3	2	現在は交流をしていないが、機会があれば行っていきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	1	4		会社の代表者が、放課後デイ連絡協議会・子ども部会等への参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			送迎時に当日の様子をお伝えしたり、LINEWORKSで活動の様子を伝えたりして、共通理解に努めている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	3	1	送迎時等に相談にのることはあるが、ペアレント・トレーニング等の支援は難しく、実施できていない。
保護者への説明責任	30	運営規程、支援内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1		見学時・契約時に説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	2		送迎時やLINEWORKSで相談される場合があり、職員間で話し合い必要な助言と支援を行っている。
	32	父母会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1		「焚火と豚汁を楽しむ会」等、保護者同士が関わる機会を設けて連携を支援している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	2		苦情について重要事項説明書にて周知しており、適切に対応できるよう備えている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	2		毎月、活動予定表や利用決定表をLINEWORKSにて発信している。
	35	個人情報に十分注意している	5			個人ファイルを、鍵付き書庫で保管している。個人情報の持ち出しは禁止し、使用後は決められた場所に戻すことえを徹底しております。 また、インスタグラムや会社のホームページへの掲載に関して、契約時に保護者様へ可否を伺っている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			スケジュールの視覚化や絵カードの提示、指差しのジェスチャー等、理解しやすいよう配慮して意思疎通を図っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	1		「焚火と豚汁を楽しむ会」等、地域住民を招待する地域に開かれた事業運営をしている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	2		保護者様には契約時に説明している。職員には、入社時に研修を受ける機会を設けている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	2		年に2回、指定避難所への避難訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	2		虐待防止委員会を設置し、定期的に研修を受ける機会を設けている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後デイサービス計画に記載している	4	1		保護者様には、契約時にやむを得ず身体拘束に関して説明している。また、放課後等デイサービス計画にも記載し、提示する際に説明している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2		契約時、食物アレルギーについて保護者様に確認している。食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応をしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	2		随時ヒヤリハットを作成し、事業所内で共有して問題解決に努めている。